

48-6020

北環科第1342号

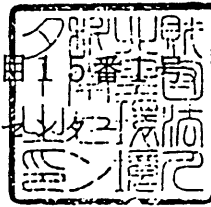
平成3年11月14日

急性毒性試験報告書

試験実施機関

住 所 神奈川県相模原市北里1丁目15番1号

名 称 財団法人 北里環境科学センター



試験管理者

運営管理者

北里環境科学センター所長

西 村 民 男



毒性試験総括管理者

北里大学衛生学部病理学教室教授

山 本 一 郎



試験担当者

試験責任者

北里環境科学センター生物室長

奥 田 舜 治



試験担当者

北里環境科学センター生物室第二係長

青 木 正 人



1. 供試試料

(1) 試料名

カビ取り洗浄剤

組成： L-乳酸、界面活性剤、 水

(2) 供試者

名 称： 株式会社島津製作所

住 所： 京都府中京区西ノ京桑原町1

2. 試験実施期間

平成3年10月18日～平成3年11月5日

3. 試験実施場所

神奈川県相模原市北里1丁目15番1号

財団法人 北里環境科学センター

4. 供試験動物

クリーンマウス Std:ddY系 ♂ 4週令 (日本エスエルシー株式会社)

5. 飼育環境

動物は室温 $25.5 \pm 1.5^{\circ}\text{C}$ 、湿度55～72%に設定した部屋で、ポリカーボネート製ケージ (130×320×230mm) に床敷を入れ、1ケージに10匹ずつ収容した。

飼料はラボMRストック (マウス・ラット研究検定用) 固形飼料 (日本農産工業) を自由に摂食させた。水は、水道水を給水瓶に入れ給水した。

床敷は、週2回 (月曜日、木曜日) 交換した。

6. 試験方法

(1) 投与方法

試料の投与方法は経口投与とし、原液を投与試料とした。保定した5匹のマウスの胃内に体重1Kg当たり9.7ml、あと5匹のマウスに体重1Kg当たり5.0ml宛マウス用ゾンデを用いて経口投与した。対照については、自由摂食、

自由給水のままとした。

(2) 観察・検査項目

① 臨床症状

試験期間中1日2回(午前と午後)動物の一般症状を観察し、異常の有無を観察した。

② 最終判定日の剖検

最終判定日に全動物を解剖し、異常の有無について調べた。

③ 体重測定

投与日と投与後1日目、7日目、15日目に体重測定を行い、各群の平均体重を測定した。

7. 試験成績

(1) 臨床症状

投与直後、投与群のマウスは一時的に呼吸亢進等が認められたが、その他は特に異常な行動は認められず、対照群のマウスと変わらなかった。また、投与後から試験最終日までの観察においても異常は認められなかった。

(2) 最終判定日の剖検結果

最終判定日にネンブタール注射液 10mg(0.2ml)を尾静脈に注射し、解剖を行ったところ、肺、心臓、胃、小腸、肝臓、腎臓等内部臓器には異常な所見は認められなかった。(写真-1～写真-3)

(3) 体重測定結果

体重測定結果は表-1に示した。

無投与の対照群に比べ投与群は体重の増加率は低めであるが、順調な体重増加傾向が認められた。

8. 結論

試験の結果から、特記すべき異常な症状は認められず、試料の経口投与による死亡は0匹であった。

したがって、供試カビ取り洗浄剤のマウスにおける50%致死量(LD₅₀)は、9.7ml/kg以上であった。

以 上

表-1 体重測定結果 (単位:g)

	No.	投与日	7日目	15日目
0.2 ml 投与群	1	20.9	30.2	35.7
	2	21.7	30.3	35.6
	3	21.0	30.1	37.1
	4	20.0	27.8	32.4
	5	20.0	29.4	33.9
	平均	20.7	29.6	34.9
0.1 ml 投与群	1	20.3	28.4	32.3
	2	21.3	28.9	33.5
	3	21.3	28.1	35.8
	4	20.5	27.9	33.3
	5	16.0	26.8	32.7
	平均	19.9	28.0	33.5
対照群	1	20.8	30.3	33.5
	2	20.6	29.8	35.6
	3	21.6	30.3	35.7
	4	20.2	27.6	31.4
	5	18.8	28.0	34.3
	平均	20.4	29.2	34.1